

は じ め に

本館は昭和47年10月に開館、以来8年近くになる。昭和54年度に実施した業務の主なるものは、常設展の運営（51,900人）、特別展の開催（37,400人）、見学会、講演会、刊行物等各種の教育普及活動（45回、参加者4,600人）を行った。さらに館外主催の展覧会（新聞社の「謎のインカ黄金秘宝展」、美術団体の「鳥取書道連盟会員展」、鳥取市の市制90周年を記念し「90年美術遺作展」等）延14回も開催された。

常設展は年次計画に基いて、少しずつではあるが、資料の充実と展示の改善を行っている。特別展は4月に「山陰の仏教美術展」8月に「科学者・レオナルド・ダ・ビンチ展」、10月に「日本海100万年展」、12月に「現代美術選抜展」を開催した。また鳥取県八頭郡智頭町の石谷貞彦氏から155点の優れた美術コレクションの寄贈を受け、1月にはこれを「石谷美術コレクション展」として県民に公開し、多くの人々（約4,600人）が鑑賞され好評を得た。これ以外にも関係市町村教育委員会と共催し県下4ヶ所で巡回展（地球の歴史展、観覧者4,600人）を行った。

本年度は、石谷美術コレクションのほか、故生駒義博氏が生涯をかけて収集された植物腊葉標本（素資料）2万数千点が遺族より寄贈された。館としては、この二大コレクションを収蔵したことは望外の喜びであり、今後、これらの資料を十分活用して館活動を充実し、御厚志に報いたいと期している。

「博物館はみんなの広場」を合言葉に、いよいよ県民に親しまれる博物館となり、県民文化の向上に役立つよう努力する所存である。各位の一層のご指導ご援助をお願いする次第である。

昭和55年7月

鳥取県立博物館長 前田 壽 男